

八戸市美術館ボランティアだより

ハビボ通信

八戸市美術館
〒031-0031
青森県八戸市番町10-4
TEL0178(45)8338
URL
[http://www.hachinohe.ed.jp/
artmuseum/](http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum/)

「地域への貢献」

ハビボ会代表 安藤清一

「美術が好き、美術館の雰囲気が好き」といった人たちがハビボ会に入会しています。今年5月、BeFM放送番組「おんであんせ」で、私が話した言葉です。

作品と出会い、心が躍る。そして想像する。心が和む。美術館の特異な雰囲気を前に興味を覚え参加したボランティア活動は、5年目を迎え、水彩画・油絵講座の受講生は70名近くと盛況。「観賞の旅」や「納涼パーティー」、「広報活動」、「資料整理」、「グッズ販売や展示室監視員」など、それぞれのボランティア活動も活発になりました。会員30名を超す「ハビボ会」の果たす役割も大きくなりました。

「ハビボ会」は2001年4月、美術館の活動を支援する目的で結成されました。当初の活動は、美術館からの主導だけでしたが、2年後の2003年には会の名称も「ハビボ会」と改め、より独自色の強い組織になりました。美術館を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。ハビボ会の活動も利用者の満足度をはかり、新たな方向を目指す道が模索されるようになりました。

八戸市美術館は1986年11月にオープンした青森県で第1号の美術館です。ボランティア活動は、メンバーの自主的な意志による活動です。そして、美術館という場で社会に向けられて行われる、責任をともなった活動です。より一層身近で、楽しい美の空間を満喫できる美術館を目指し、美術館と愛好者をつなぐ架け橋になるという地域への貢献がボランティアの精神的中核になっているといえるでしょう。



4月20日、ハビボ会組織会が行われ、昨年度の活動報告と今年度の活動予定の報告がありました。



美術館さんぽ

八戸市美術館での展覧会を観た会員の方からの感想で

「三人の画家展～渡辺貞一・樋口猛彦・名久井由蔵」

平成17年3月12日～4月17日

「熱き心の画家たち」と題され、共に昭和を生きた三人の絵を観ました。油彩、水彩と表現の仕方はそれぞれ違いますが昭和という時代の流れと青森への想いが込められた素晴らしいものばかりでした。その中で渡辺氏の「ストーン・サークル」・「川原の風景」は生と死の狭間に慈愛を感じ涙が出るほどでした。青森の画家の情熱に触れた一時でした。(山口)

「眼と手の思考。岡山良一遺作展」

平成17年4月23日～5月8日

「生きている時間が希望へ到達することを願っているような 何らかの返事を求めているような 作品ではなかったかな？」(佐藤)

何枚かの女の子の絵はかわいく、娘を慈しみその幸せを願う父親の愛情が、自画像の眼差しかから伝わってくるようで観る者を幸せにしてくれる作品でした。(成田)

昔通った喫茶店“凡”。マッチにあった女性の顔(記憶違い?)を見て懐かしかった。岡山さんのデザインであったこと、今知りました。(板橋)

キャンバスから溢れ出ようとする色に圧倒されました。(山口)

「高橋貞吾遺作展」

平成17年7月1日～7月5日

八戸市に長く在住していた高橋貞吾氏の遺作展が開催され、お手伝いをさせていただきました。多くの方々が、高橋さんを偲んで絵に見入っておられました。

「新聞を見ました」「あまりに素晴らしいので娘を連れてきました」等とおっしゃる方や、学会の後、立ち寄られた滋賀県の方等たくさんの方がみえました。車いす生活の長かった作者が、こんなにも素晴らしい大作を多く完成させた事に大変驚きました。また、握力が弱った時にも工夫して絵筆を握り、手の届かない所は絵の向きを変えて制作するなど絵へのあふれる想いが伝わってきて感動しました。素晴らしい思い出深いお手伝いでした。(千葉)

member's voice

=わたしのギャラリーめぐり=

私がよく行くギャラリーは、「布・ガラス・アクセサリー」等が中心です。行くと触れたり身につけられる物は身につけ、作品を肌で感じるようにしています。最近行ったT邸の展覧会でも素材の快適さを楽しんで来ました。ギャラリーめぐりは人、物ともに新しい出会いがあるのでとても楽しいです。(S)



=工藤甲人展を観て=

工藤氏の展覧会で一番心に残ったのは「空間」でした。柔らかい空間や幾重にも重なっている空間が感じられました。この方は今90才ですが、90才とは思えない鮮やかな色彩でした。「年齢を重ねているから落ち着いている」ではなく、「年齢を重ねているからますます輝く」という印象を強く持ちました。日本画は「写実で平面的」という作品だけでなく「抽象的な空間」というものもあると知りました。(笹本)

【 水彩画入門講座 】

受講生40数名で6月10日から開講しました

昨年大好評だった八戸市美術館ボランティア「ハビボ会」による「水彩画入門講座」が今年も開講されました。受講生が倍増し、約50名の方が熱心に通われています。期間は6月から9月までの4ヶ月間でAコース(第1・3金曜日)、Bコース(第2・4金曜日)があり、時間は18時15分から20時までです。講師は、安藤清一氏、白石昭宣氏、浅沼弘氏と充実したスタッフ陣で個別指導を行っております。美術館内で絵を描くという好環境のもとに、皆さん真剣な面持ちながら、時には笑顔で心から楽しそうに学んでいます。10月には完成した作品について講師のアドバイスも加えた観賞会を行う予定です。受講生の皆さん、レベルアップされ近い将来グループ展・個展等作品を発表できる機会があればいいですね。



〔観賞の旅〕 輝く色彩の木版画家「加藤武雄展」を観て！

(7月5日)青森県立郷土館

「なぜこの人は版画で表現したかったのだろうか。」と作品を観て思いました。加藤氏の作品は、私が知っている版画特有の形と形、色と色がぶつかっている感じではなく、油彩や水彩で使う技法のように、ぼかしを使って輪郭線を表現していたからです。一番印象に残っている作品は、老木の林檎の木の四季を描いた6枚の連作です。広々とした空間に緩やかな時間の流れが伝わってきて落ち着く感じの作品でした。『みょうが』(食べ物です)という作品からは、自分が表現したいものは素直に表現して(創作して)いいのだと教えられました。タブーを自分の中で作ってはだめだという感じでしょうか。身近な題材を丁寧に観察し、表現する姿勢を教えてくださいました。(笹本)



納涼パーティー及びお話し会

7月23日、「キリンパーク」にて会員20数名と美術館からは松本さん、類家さんが参加され納涼パーティーが開催されました。今回は国際協力事業団シニアボランティアで活躍されている根城有子さんのお話もお聞きすることが出来ました。根城さんはエジプトの大学でピアノを教えていらしたそうですが教え方の工夫をしたことやイスラム圏での生活の大変さ、でもそれ以上に古代遺跡のすばらしさなどをお話ししてくださいました。皆さん大変感銘を受けられ参加者からの質問もたくさん出て、しばし異国の空気に包まれていました。楽しい会話、楽しい人、楽しい時間を過ごすことが出来、笑い声の絶えない和やかな納涼パーティーでした。

おすすめコーナー

...機会があれば...

= 岡本太郎、誇らかなメッセージ =
明日の神話 完成の道展

川崎市岡本太郎美術館 9月25日迄

岡本太郎が1967年メキシコで建設中のホテルに描いた縦5.5m、横30mの壁画「明日の神話」が35年ぶりに発見されました。「反核、反戦をテーマとした最大の絵画作品誕生までの軌跡を辿る」として開催中です。ピカソとの対比もおもしろいのではないのでしょうか。

= ドレスデン国立美術館展 =
「世界の鏡」

東京国立西洋美術館 9月19日

美術収集室創設直後から伝わる華麗な武具や装身具、伊万里焼等出品数約200点で注目はレンブラント「ガニユメディアスの誘惑」とフェルメール「窓辺で手紙を読む若い女」だそうです。光の対比と東西の文化を上野で観てみませんか。

特別展

「両洋の眼 2005」開催中

7月29日(金)から開催されている「両洋の眼 2005」展を観ました。ジャンルを問わず自由に描かれた現代作家75名の作品群の中にいると、それぞれの絵から囁き、呟き、頷き、叫びの音が聞こえてくるようで、観ているのではなく視られているような錯覚を覚えました。日々の変化にともない色の好みも変わるようで、この日は「譜」の前にしばらく佇み、「オリーブ」の色にみとれ、「マテラの夏」の幻想的な空気に絵の向こうにもう一人の自分を見つけていました。

まだご覧になっていない方は、是非足を運んでみて下さい。8月28日までです。

会員の方はご覧になった感想を一言でもいいですのでお知らせ頂きたいと思います。よろしくお願い致します。広報担当まで。



美術館行事予定

ICANOF (イカノフ) 5周年記念企画展

『メガネウラ MEGA NEURA展』9月17日(土)~10月2日(日)

特別展 『三浦哲郎作品展』 10月22日~11月20日(日)

「ハビボ会」って何？

ハビボ会とは「八戸市美術館ボランティア」の言葉から一字ずつとった会の名称です。美術館で行われる各行事のお手伝いやワークショップ開催などのボランティア活動を行っています。会費は年600円です。主な活動としては、展示作品や作家の研修 ハビボ通信の発行 美術館の資料整理の手伝い 水彩画・油彩画講座等の創作指導、サポートです。興味のある方は一緒に活動してみませんか。

編集後記

スタッフ4人がミーティングを重ね、なんとか7号を発行出来ました。3人の美女ご苦労様でした。

(板橋)

ボランティアの人たちの声がたくさん聞けると楽しい広報になると思います。感じたことを一行でも二行でもいいですのでよろしくお願い致します。

(成田)

今回、初めて記事を書きました。が、いかに自分が物事をよく見ていないか実感しました。好きだから、興味があるから展覧会に行くのはいいけれど、そこで得た感動や発見を「確実」に自分のものにするためには見ればなしではだめと強く思いました。

(笹本)

皆様のご協力感謝いたします。少しずつ充実した内容にしていければと思います。よろしくお願致します。

(山口)